

『逝きし世の面影』 渡辺京二（著）

葦書房, 1998年 ISBN:4751207180
配置場所:書庫 東4階、開架 西館2階
請求記号:210.58|W 46

『日本人の微笑』

小泉八雲（著）

「世界は笑う」:

新・ちくま文学の森 /

鶴見俊輔【ほか】編:13」に掲載。

筑摩書房, 1995年 ISBN:4480101330

配置場所:軽読書 南館1階 請求記号:|SH57||13

『いま、こころを育むとは』

山折哲雄（著）

小学館, 2009年

ISBN:4098250653

購入手続き中

私のすすめるこの1冊

初田 幸隆(教職キャリア高度化センター 教授)

『逝きし世の面影』

渡辺京二（著）

東日本大震災の年の暮れのことです。校長をしていた開校一年目の東山開晴館（小中一貫校）の全校集会で、『いま、こころを育むとは』（山折哲雄（著））の一節を、子どもたちに紹介しました。それは小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の『日本人の微笑』というエッセーを引用したものでした。

小泉は東京大学教授になった1890年代半ばのこと、当時のアメリカ大使館の外交官宅の女中（当時の表記）が、父親の死を雇い主に笑顔で報告したことに対して、「なぜ肉親の死を笑顔で語るのか」と叱責されたというエピソードを耳にします。この笑顔は「相手に対して自分と同じような嘆きと悲しみを感じさせることに対する気遣いである」と解釈するのですが、山折は、さらに「日本人の微笑みは、自分の深い悲しみを慰撫するため、絶望の気持ちを抑制しコントロールするための生きる上での慎み、自制の気持ちの表れである」とする柳田国男の考えも紹介した上で、「日本人の微笑みは生活する上での人間関係を律する見事な表現の一つではないか」としています。

当時、子どもたちは、テレビをはじめとする様々な報道を通して、大震災による多くの被災者の姿を目にしていました。そしてまた、混乱の中にあっても、コンビニやガソリンスタンドに整然と列をなす人々の姿を、世界中のメディアは驚きをもって報じていました。そのような中、未だ見つからない家族や友人のことを語る人々の表情に、「日本人の微笑」

を感じ取っていたのは、決してわたくしだけではないと思います。

このように、私たちが当たり前とする立ち居振る舞いにも、世界標準ではないものがたくさんあります。今求められているグローバル教育でも、まずは足元の日本という国や、日本人というものに対する深い理解が必要であると思います。そこで、子どもたち自身がこれらについて考える機会となる場を意図的に設定してきました。もちろん、様々な国籍や立場の子が在籍する中で、この国の国柄や文化について語る時には、それなりの配慮と、十分な吟味が必要であることは言うまでもありません。

さて、紹介する『逝きし世の面影』は、私の足元を明るく照らしてくれる一冊です。幕末から明治初頭に我が国を訪れた欧米人による手記をもとに、開国、そして近代化により葬り去られていく江戸期の日本の残像を浮き彫りにしています。彼らの多くは、西洋を範とする近代化による日本文明の消滅を危惧していました。そして著者は「我々はまだ、近代以前の文明はただ変貌しただけで、同じ日本という文明が時代の装いを替えて今日も続いているのではなかろうか」と述べています。

幕末から明治初頭にかけて我が国を訪れた異邦人の手記を通して、現代を生きる私たちに、この国のカタチを知る機会を提供してくれる貴重な一冊です。是非、ご一読ください。

第29回 うたとおはなしの会

報告



平成29年11月25日に第29回「うたとおはなしの会」が開催された。当日は朝から晴天にも恵まれ、親子連れを中心に137名の参加者で会場はいっぱいになった。図書館長の挨拶に続き、オープニングでは京の通り名「丸竹夷」のわらべうたを歌いながら5名の学生が登場し、楽しい会の幕開けとなった。子どもたちは、学生が手に持っているお手玉に興味津々の様子で、母親の膝の上で手を動かしながら楽しんでいる子どもの姿があった。

続いてパネルシアター「ふしぎなたまご」では、リズムカルなうたにのって学生が卵を割ると、目玉焼き、かえる、家、など奇想天外なものが出てくるお話で、子どもたちは新しい卵が出てくるたびに「次は何が入っているのかな?」と身を乗り出して見入り、学生とのやりとりを楽しんでいる様子が見られた。

続いて手遊びうた「みどりのもりのなか」で遊んだ後、絵本「どん!」(西村敏雄さく)を鑑賞した。太鼓のどんとちゃんが、道でであった友だちに「こんにちは、ど〜ん」と元気にあいさつする度に、子どもたちは嬉しそうな様子でお話に集中していて、ラストシーン「どん!どん!どん!のみだれうち〜」という場面では、子どもたちも「どんどんど〜ん」と声を出して楽しんでいた。

絵本が終わると、「三線ざむらい」と名乗るお待さんが三線を演奏しながら登場し、子どもたちの注目を集めた。この「三線ざむらい」に扮して三線の演奏をしてくれたのは、本学教育学科の田爪先生である。子どもたちは初めて目にする三線とその魅力的な音にすっかり夢中になり、沖縄民謡「てんさぐの花」の演奏を鑑賞したり、三線の伴奏で「たのしいね」の楽器遊びを楽しんだりした。前回まで、楽器遊びはすずやカステネット、タンバリンなどを使用してきたが、今回はeプロジェクト「竹友会」のメンバー手作りの四つ竹(竹でできた打楽器)を参加者全員の子どもたちが手につけ、思い思いに打ち鳴らし、演奏を楽しむことができた。竹の音のおか

げで沖縄音楽の楽しさが一層伝わり、「三線の演奏がとても珍しくてよかった」と参加者からも好評だった。

最後は子どもたちみんなが楽しみにしている人形劇で、今回は日本昔ばなしの「さるかに合戦」を上演した。「さるとかにとのお話はむかしむかしの物語〜」という美しいメロディーで人形劇が始まると、子どもたちも目を輝かせながらお話の世界に引き込まれていった。お母さん蟹が猿の投げた柿に当たって死んでしまった後、大勢の子蟹たちが生まれるシーンでは、「わあ〜」と会場から歓声があがり、蜂、栗、臼、うんこなどの仲間と共に猿を懲らしめるシーンでは、子どもたちからも「がんばれ〜」「やったーっ」という声が聞こえるなど、最後まで演じ手と子どもたちが一体となってお話を楽しむことができた。

エンディングでは幼児教育専攻1回生13名が「にんげんっていいな」を合唱し、和やかな雰囲気のもとに閉会した。アンケートでは「普段は落ち着いた息子が最後までじっと見ていました(3歳男児)」「9歳6歳4歳の子どもを連れて参加しましたが、小学生の子どもも興味をもって見ていました。」「子どもも親も楽しめました。また何回も来たいです(3歳女児)」など、好評をいただいた。帰りには学生たち手作りのお手玉をもらい、早速おかあさんに遊び方を教えてもらいながら帰る親子連れも見られた。今回は、今まであまり取り上げてこなかった日本の昔話や日本の遊び、民謡などを親子で楽しんでもらいたいという思いでプログラムを考えて臨んだ。「うたとおはなしの会」は次回で30回目の節目を迎える。これからも、これまでと同様に「ほんとうにいいものを届けたい」という気持ちを忘れず努力していきたい。

平井恭子(幼児教育科 教授)



京都教育大学
それはかなう夢講座

第9回の報告

12月13日(水)、
附属図書館1階のリフレッシュ
ラウンジにて「それはかなう夢講座」が実施されました。
第9回は、発達障害学科の牛山道雄先生による「認知と運動の科学」をテーマ
に、お話しがありました。
定員30名を越える参加があり、多くの
学生や教職員で賑わいました。

おにぎり2個&お茶付き！
先着30名



第10回のお知らせ

↑ 第9回の様子

【日時】2018年1月17日(水) 12:10~12:40
【場所】附属図書館1階 リフレッシュラウンジ
【講師】深沢 太香子(家政科 准教授)
【テーマ】「男は暑がり？女は寒がり？
一男女で違う温かさ/冷たさの感じ方」
主催：「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のための
カリキュラム開発」プロジェクト
後援：京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

開催中！わくわくkyo2 ライブラリー2017
読書キャンペーン

2017年10月10日(火)～
2018年1月15日(月)

児童書コーナー(南館1階)

幼児教育科主催



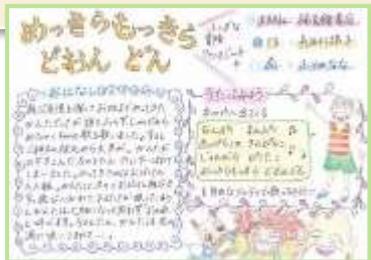
学生による絵本のよみきかせ

日時：2018年1月15日(月) 15:00～
絵本：『あけましておめでとう』など

今月の絵本カード(学生作)

『めっきらもっきらどおんどん』
作：長谷川 摂子 絵：ふりや なな
出版社：福音館書店

※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカード
が飾られていますので、ぜひ見に来てください。↓



図書館からのお知らせ

◆ラーニング commonsのIPC端末の利用休止について

IPCのシステム更新に伴い、2018年1月～2月にかけてラーニング commonsに設置しているIPC 端末が利用できなくなります。ご不便おかけしますがどうぞご了承ください。

◆貸出資料の延滞に関する罰則の緩和について

図書館では、教職員・学生の皆様の研究・学習活動の支援の一環として、貸出資料の延滞に関する罰則を緩和します。詳細は図書館ホームページやポスター等をご確認ください。なお、罰則は緩和しますが、貸出期限の遵守には今後ともご協力よろしく申し上げます。

リクエストと投票で話題の本を読もう！

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています！

1月の投票期間は

1月17日(水)～1月31日(水)です。

企画展示室

【開催されました！】

◆e-project 「重複障害ってなあに？」による来てみてとくし展

12月1日(金)～12月25日(月)に開催されました。皆さんも、発表の場に展示室をドンドン活用してください。



ぜひ、
ご覧ください！

【告知】

◆平成29年度 京都教育大学 附属学校・園「第8回こども美術作品展」

【会期】1月31日(水)～2月6日(火)

教育資料館 まなびの森ミュージアム

今月の逸品
「狩野直喜博士像」

詳しくはホームページの「今月の逸品」コーナーをご覧ください。展示していますので、ぜひ教育資料館へ来てくださいね！



詳しくは…教育資料館 まなびの森ミュージアム
<http://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

今回の執筆者 **徳岡 慶一** (教育学科 教授)

教師の即時的意識決定過程における推論に関する事例研究 —アブダクションの視点から—

徳岡 慶一

京都教育大学紀要. 2017, No.131, pp. 111-121

本研究では教師が即時的意識決定を行う際に、どのような推論を行っているのかを検討するために、小学校の熟練教師1名を対象にビデオ再生法による事例研究を行いました。授業における教師の意識決定は、時間的制約の中で行われます。そのため必要な情報を全て収集し、最適な選択肢を慎重に検討し選択することは困難です。熟考していると授業がスムーズに進行しなくなるからです。意識決定する際のこのような制約をH.A.サイモンは「限定された合理性」(bounded rationality)と呼び、そのため人は「必ずしも最適でなくとも、限定された能力・時間のもとで、受け入れられる最小限の基準を満足する選択肢を」選択すると考えました。

そして教師は意識決定する前に、児童の行動や発言から児童の思考内容や理解度を推論します。事象を知覚してその事象を引き起こした原因を時間的に遡って推論するのです。推論には、演繹、帰納、アブダクション(abduction)があります。本研究で取り上げた教師はアブダクションを用いていました。アブダクションは、プラグマティズムを創始したC.S. パースが定式化しました。パースはアブダクションを「リトロダクション(retroduction)」、すなわち「結果から原因へと遡及する推論」とも呼び、ある結果からその原因へと遡及推論を行い、その原因についてもっとも理にかなった説明仮説を提案する推論様式(仮説なので誤っていることもある)としました。アブダクションは、論理学はじめ、教育学、言語学、法学など多くの分野で注目されています。今後事例を増やして、教師の即時的意識決定のモデルを開発する計画です。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 131号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>でもご覧ください。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2018年1月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1/9 授業再開

1/13-1/14 大学入試センター試験

2018年2月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

2/5-2/9 後期末試験

2/15-16 システム更新のため

2/25-2/26 前期入試

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページ (QRコード)

<http://tosh02.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.208(2018年1月号)

発行日:平成30年1月4日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先: library@kyokyo-u.ac.jp

